

[抄録集掲載用原稿]
本文のみご記入ください

【発表区分】例、特別講演 1

演 題 名

現職名

日本においては健康長寿の実現、健康寿命の延伸、そして認知症対策が喫緊の課題とされています。これらの社会的そして時代的な喫緊の課題を解決する一つの方法として、東洋医学ではどのような考え方にもとづき、どのような角度から、どのようなアプローチが行われており、どのような可能性を秘めているのでしょうか。本認定講座に参加されている多くの先生方と一緒に探ってまいりたいと思っております。

多くの高齢者は加齢とともに生理的予備能が低下し、健康な状態からプレフレイル、フレイルの状態を経過して要支援、要介護の状態にいたると考えられています。老年症候群が人の生理的予備能の低下によるものであれば、人の生理的予備能を東洋医学の考え方のもとづいて、しっかりとサポートすることが健康寿命の延伸、健康長寿の実現につながる（仮説）ということになります。

本日はご紹介いたします「^{さんしゅうしんぽう}三焦鍼法」の基本的なコンセプトは、「気」のサイドから人のエネルギー予備能に働きかけ、内臓機能、体温調節、代謝機能、免疫機能などに対して全人的・総合的な角度からサポートを行い、健康長寿の実現、健康寿命の延伸をはかろうというものです。

老化促進マウスを使った三焦鍼法の基礎研究では、脳年齢、骨年齢、生殖年齢、そして寿命の著しい延長効果が認められています。東洋医学では脳、骨、生殖機能、寿命は、すべて生理活性物質 X および「腎」の力と関係している（仮説）と考えられているので、この基礎研究の結果は三焦鍼法に生理活性物質 X および「腎」の力をサポートする優れた効果があることを示唆しています。その秘密を一緒に探ってみましょう。

第 1 部では、東洋医学では認知症をどのように捉えているのか、それにもとづいた認知症の予防と改善法の考え方はどうなっているのか等について紹介させていただきます。

第 2 部では、(一社)老人病研究会が平成 22 年 10 月から令和 3 年 1 2 月までに医療・介護連携による認知症 Gold-QPD 育成講座（実践セミナー）で育成してまいりました認知症専門鍼灸師が家族連携、施設連携をベースに取り組んできた在宅、高齢者入居施設、通所介護施設、グループホームなどでの取り組み成果の一部をご紹介させていただき、今後の様々な連携の中での認知症の人に対する鍼灸治療の可能性を一緒に探ってまいりたいと思っております。第 2 部の後半では、実技のデモンストレーションを行いながら、施術に際しての認知症の人への具体的な対応の仕方を、事例をあげながら紹介させていただきます。